

ゴーヘッドズ 速報

Goaheads

第36号 平成22年10月27日

落ち着き感が欠けてしまった先発@幹男

久々貧打の1安打・・・

	1	2	3	4	5	6	7	R
G	1	0	2	0	1			4
T	3	3	0	0	×			6



10/23(土)東京ドームに出向き、KUSA-1 準決勝を戦った。今日の先発は、前回この東京ドームで素晴らしい内容であった幹男、その彼に今日も先発を任せ、我がチーム先行でゲームは始まった。先頭の智は、芯を捕らえたものの、センター正面で、一死、その後、今期初の二番に入った達脇も芯を捕らえたが、ショートライナーで二死、初回0点発進かと思った深沢の打席は、ストレートの四球で出塁、その後、相手バッテリーのミスで、労せず先制した。先制すると、チームの雰囲気が俄然良くなる我がチームであったが、今日の相手打者は、非常に振れているチームであった。先頭打者を三ゴロに打ち取ったかと思った矢先、送球エラーにより、出塁を許す、しかし、後続はショートゴロに打ち取り1死としたが、続く打者には、一二塁間を破られ、安打で出塁、そして、続く打者の一ゴロを達脇が上手く裁き二死、しかし、ここから2連続安打を浴び、初回到3点を献上してした。続く二回の相手攻撃、6つの安打を浴び3点を許してしまった。翌、我がチームの攻撃、相手投手の乱調で、5つの四死球とW P・P Bにより、3点を返し、まだゲームの行方は分からない。そして、5回には、深沢が打った右線の3ベースで一気にチームは逆転の雰囲気が漂う。続く4番が打った打球はセンター前に抜けたかと思ったが、相手ショートが上手く裁き、後続は続かず、この間の1点のみに留まり、ゲームは終わった。今日のゲームを振り返ると、初回のサードゴロが裁けなかったのが、非常に悔やまれる。これが裁けていたら、初回の3点は無かっただけに、結果ではあるが、非常に惜しい。また、相手バッテリーが乱調だっただけに、そこをもう少し付けていたら、今日は勝利をする事ができたであろう。そんな中、二番手でマウンドに上がった政司は非常に落ち着いた内容であった。計打者7人に被安打1、1奪三振と非常に素晴らしい内容であった。しかし、今期3つ目のタイトルを狙った戦いは、残念ながら、前半で決まり、敗戦となってしまった。最後に、少しずつ頑張りを見せている選手が一人出現、今日初先発でライトを守った荒木である。最終回の記録にならないイニングでの失策が無ければ、恐らく#27を超えたであろう。彼の頑張り到现在後期待したい!(ちょっとほめすぎ?)